

決定版

週刊ホテルレストラン  
別冊  
HOTELERES

# 必ず成功する PART 7 ホテルリノベーションシミュレーション

2014.9.26 別冊 ¥3000 (税別)

# Hotel Evolution

Ohta Publications

# Tradition is Continuing Innovation 伝統は革新の連続



THE SCREEN



The Ritz-Carlton Kyoto



ドリーミーイン PREMIUM 京都駅前



日吉屋は京都で唯一の京和傘メーカー。「伝統は革新の連続」を企業理念に、近年は和のエンセンスを取り入れ、デザイン化した照明器具を開発し、国内外のプロジェクトで多数採用される。和傘の技術だけでなく、漆や彫物、友禅、和紙等、京の匠の技や素材とコラボレーションした特注デザイン照明も1点から製作可能。照明器具専門メーカーと組み、板金加工、FRP 素材からLED等最先端のテクノロジーとも融合した、インテリジェントなデザイン照明をクライアントの要望に合わせてご提案している。前編後編

The Ritz-Carlton Kyoto、THE SCREEN、ドリーミーイン PREMIUM 京都駅前、LAKE FOREST RESORT、JR 京都駅前ビル、京都マルイほか。

景観等の整備が進んでいる。では、ホテルはどうだろうか。設備は最新式で快適。外国語対応の接客にも余念がないだろう。しかし、デザインに関しては全くといっていいほど従来通り西洋・風だ。そんな中、革新的な方針を打ち出したのが、2014年2月に京都に開業したザ・リッツ・カールトン京都だ。世界各国のリッツ・カールトンでも同等のクオリティを提供する責務を負うリッツ・カールトンが、京都という都市の特異性目をつけ、古都の景観を借景として生かした外観。京都の伝統技術を住空間に取り入れた内装を施すという冒険に出た。弊社もその挑戦に照明という分野で参加できたことを誇りに思う。

目覚めるとそこには京都があり、京都を観光して眠りにつく空間も又京都だ。彼らは京都に滞在する間、余すことなく京都を体感できる。目が覚めてから眠りにつくまでが観光である。一日の始まりと終わりを請け負うホテルは、その重要な役割を見事に果たしてほしい。

想像してみたい。例えばあなたがパリへ観光に赴き、ホテル宿泊にするとしよう。そのホテルは外観から内装までほぼ遜色なく日本風なのだとして、あなたは一体何を思うだろうか。

「よくそこまで再現した」「本物をくくりだ」  
あなたはそう感嘆するかもしれない。だが、第一に感じることは、それは、  
「一体ここはどこなのだ」「私はパリに旅行にきたのだ。なのに、なぜわざわざ日本風のホテルに宿泊せねばならないのか」  
これに尽きるのではないだろうか。

突拍子もない話だと感じられるかもしれない。だが、これが日本のホテル業界の現状だと思う。  
「どうして日本のホテルはどこもかしこも西洋・風・なのだ」  
来日した外国人クライアントから私が受ける質問は、いつもこれだ。

近年、日本の文化、芸術、そして豊かな自然を求め、世界各国からインバウンドと呼ばれる訪日旅行者が訪れる。特に2020年東京オリンピックを控え、首都圏を中心にインバウンド目線で道路標識、

商号：株式会社日吉屋 / HIYOSHIYA Co., Ltd.  
代表者：代表取締役 西堀 耕太郎  
創業：江戸時代後期  
e-mail: info@wagasa.com  
URL: http://www.wagasa.com/

【京都本社】  
〒602-0072  
京都市上京区寺之内通堀川東入百々町 546  
TEL: +81-(0)75-441-6644  
FAX: +81-(0)75-441-6645

【東京事務所】  
〒111-0056  
東京都台東区小島 2-18-17 本木ビル4F  
TEL: +81-(0)70-5507-1051  
FAX: +81-(0)3-4333-0284